

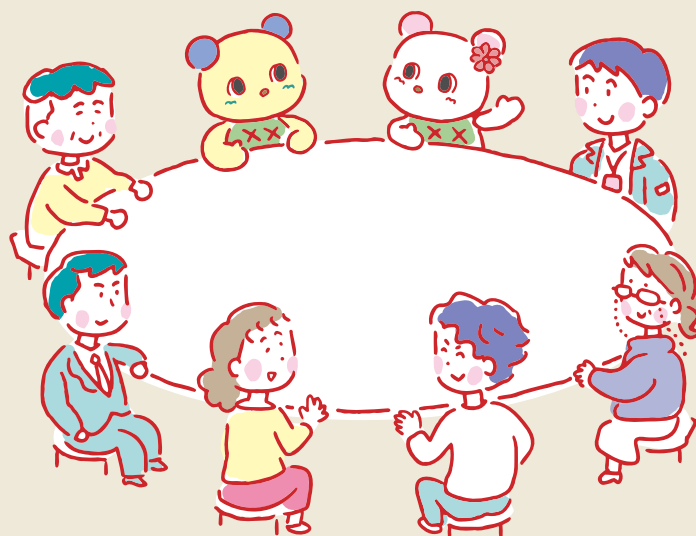
(仮称)

宮前区の

「希望のシナリオ」
実現プロジェクト



宮前区
ソーシャルデザインセンターの
創出に向けた
「ラウンドテーブル」の
お試し実施



令和3年度(2021～2022年)の活動記録

本紙では平成30年から検討してきた宮前区の「希望のシナリオ」実現プロジェクトの一環として、令和3年度に地域の課題解決や活動を豊かにする宮前区らしい「しくみ」を検討するために実施した「お試しラウンドテーブル」の記録と、「宮前区のソーシャルデザインセンター像(案)」の検討について紹介しています。



川崎市これからの コミュニティ施策の 基本的考え方

地域に広がる「まちのひろば」

川崎市のコミュニティの「希望のシナリオ」(下図)は、概ね10年後、2028年の川崎市が目指す、多様なつながりや居場所【まちのひろば】を創出し、幸福度が高く、誰もが認められる持続可能な都市型コミュニティをイメージしたものです。

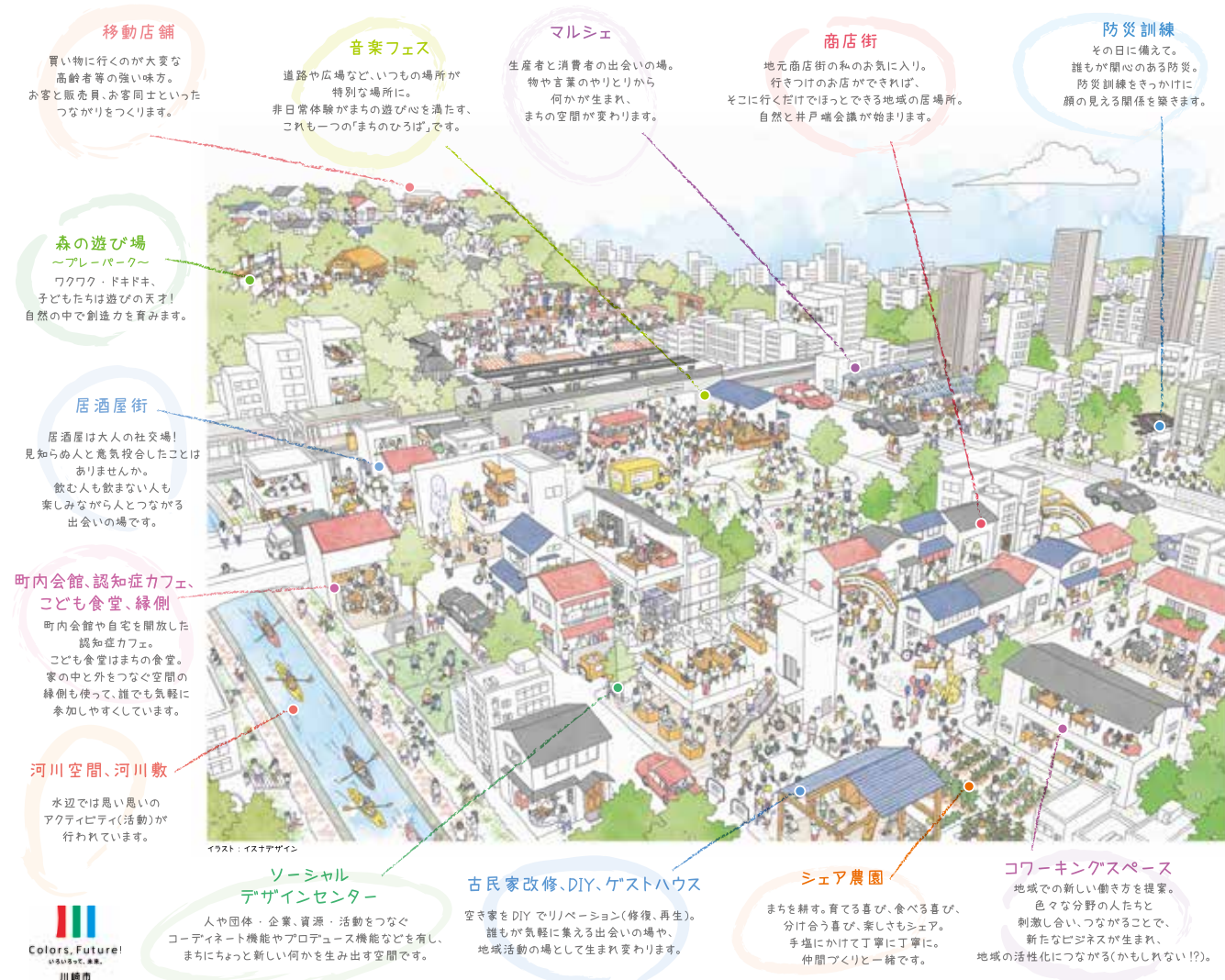
この図は平成 30 (2018) 年度に各区で開催した市民検討会議ワークショップ等で、市民の皆さんからいただいたご意見を基に作成されたものです。

「希望のシナリオ」の実現に向けて

川崎市では、希望のシナリオの実現に向け、多様な主体の連携により、「市民創発」による持続可能な暮らしやすい地域を実現するため、「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」をまとめました。

市民創発とは？

色々な人や団体が出会い、つながることで様々な化学反応が起こります。この化学反応がこれまでにない活動や予期せぬ価値を創出します。このポジティブな相互作用により、暮らしやすい地域をつくります。



イラスト：イスナデザイン

「希望のシナリオ」実現に向けた主な取組

市民、事業者、川崎市等が協力し、「希望のシナリオ」実現に向けて、様々な取組を行っていくことで、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる地域を目指す「地域包括ケアシステム」の構築にもつながっていきます。

地域
レベル

地域の居場所「まちのひろば」の創出

誰もが気軽に集える出会いの場として、官民間問わず、多様な地域資源を活用して、「まちのひろば」を創出し、人材・資源のネットワーク化や情報共有の促進、地域課題の解決等に取り組むとともに、市民のつながりの向上を図ります。

区域
レベル

区域レベルのプラットフォーム「ソーシャルデザインセンター」の創出

市民創発によって課題解決を行うため、地域での様々な新しい活動や価値を生み出し、社会変革(ソーシャルイノベーション)を促す基盤(プラットフォーム)を創出します。

宮前区の

「希望のシナリオ」実現プロジェクト

宮前区 具体的な進め方

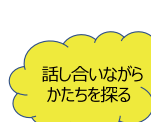
ポイント①

いつまでに何をつくるか最初に決めないのが「肝」

これまでの行政手法



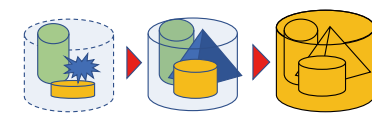
今回のやり方



3年間で段階的に整備する



仮に結果は同じでも、プロセスは異なる



スモールスタート & トライアンドエラー

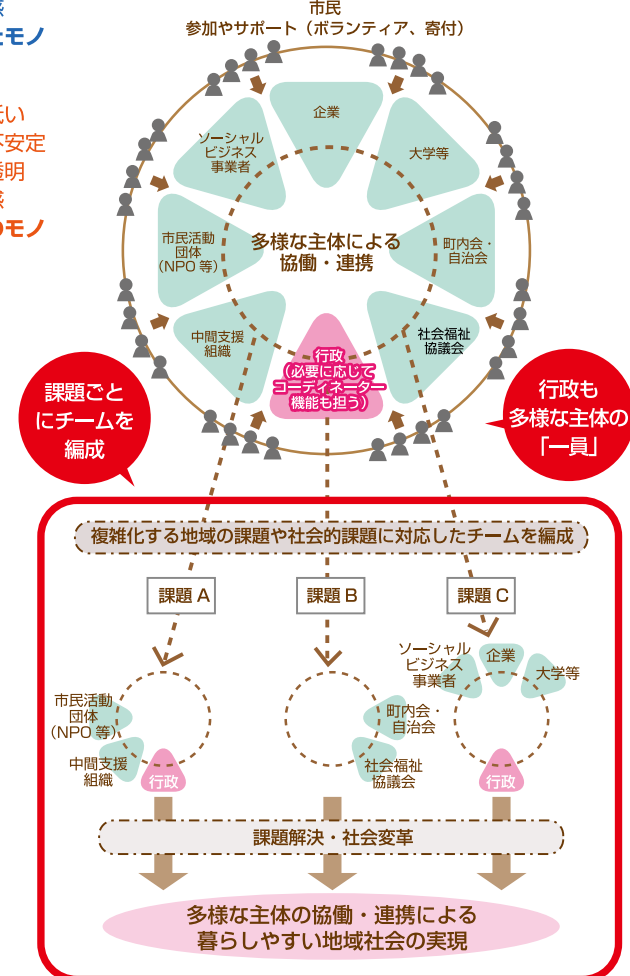
- ・計画的に進行
- ・硬直的・安定感
- ・先が見通せる
- ・きっちり感
- ・与えられたモノ

- ・計画性が低い
- ・流動的・不安定
- ・先行き不透明
- ・ワクワク感
- ・自分たちのモノ

ポイント②

行政も多様な主体の「一員」
区民のみなさんと一緒に考えます

目指すべき社会の「これからの」イメージ
(川崎市協働・連携の基本方針より)



宮前区ではどう進めているか？

本市のコミュニティ施策は、各区の実情に応じて進めています。

では、宮前区の地域特性は？というと、区民の活動が盛んで、**区民は行政の2歩も3歩も先を行っていること**です。このため、宮前区の誇る「豊かな市民活動・地域活動」をまずは区民と職員が学び合うところから始めました。

区内の多彩な活動のつながりを「活動相関図」にまとめ、活動の現場に行き話を聞いてみる「**現地ツアー**」を行いました。さらに、活動現場から得られた気づきや活動の手助けになりそうなアイデアを「**活動の手助けになるかも?! アイデア集**」にまとめ、大きく6つの柱となる活動を支援するしくみが見えてきました。

これらの取組をもとに、**参加と協働による地域課題解決の区域レベルの新たなしくみづくり**に向けて、様々な主体とともに、トライ&エラーで検討を進めています。

「希望のシナリオ」実現プロジェクト これまでの取組

宮前区内での 豊かな活動の広がり再確認

目的

- ▶ 宮前区内の活動やつながりを明らかにしよう
- ▶ つながりを活かすために必要な役割や機能を考えよう

取組

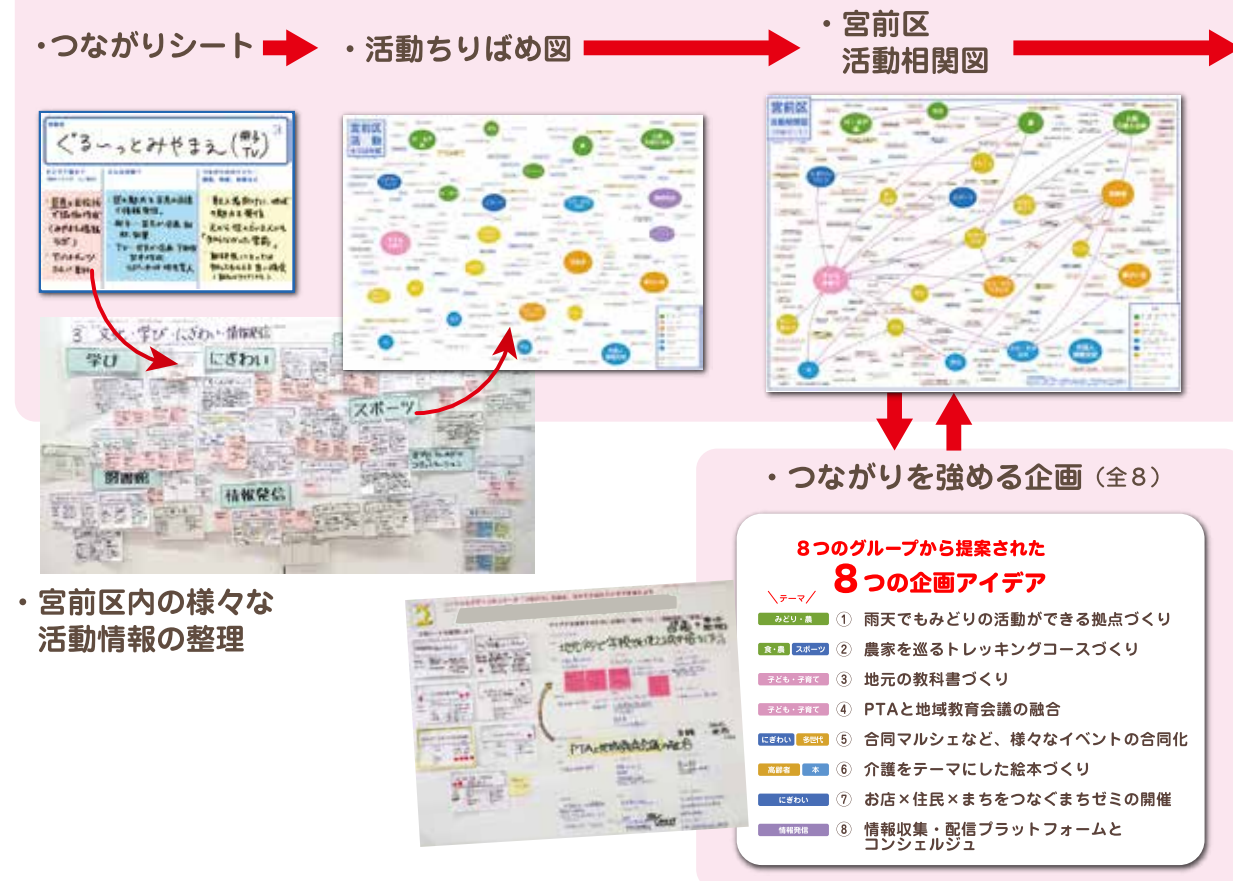
2019年
1月～2月

職員向け・
区民向け
勉強会

3月
21日

活動相関図
づくり
実験室

成果



活動現場の体験・資源の再発掘

- ▶ 活動の現場に行き話をして聞いてみよう
- ▶ 活動がさらに豊かになるしくみを考えよう
- ▶ できることからスモールスタートしよう

7月
15日

“みやまえ取り組み隊”
キックオフ
ミーティング

9月～
10月

現地ツアー
①～⑥

11月
17日

現地ツアー
報告会&
ミーティング

2020年
3月～

みやまえ取り組み隊
NEXTチャレンジ始動

コロナ禍の
ため中止

・マップ版
活動相関図



・現地ツアーの企画
(全5企画)



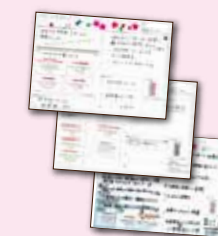
・現地ツアーレポート



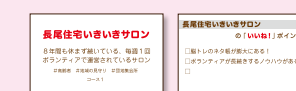
・ふり返しシート



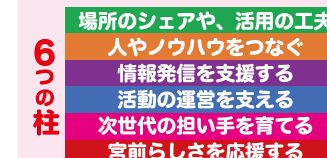
・市民創発を促す
アクションのタネ



・現地ツアー「資源カード」



・活動の手助けになるかも!? アイデア集



平成30年度(2018～2019年)

平成30年度は、宮前区内にある活動を洗い出し、それらのつながりを明らかにする取組からはじめました。まず職員の中で知っている活動や資源を勉強会で出し合い、それをたたき台に区内で活動している区民のみなさんとさらに情報を出し合いました。

それらを元に、3月には活動の「つながり」を確認し「活動相関図」をつくり、つながりを強めるための企画アイデアを出し合うワークショップを開催しました。

令和元年度(2019～2020年)

令和元年度には、区内で様々な活動をしている区民等の「みやまえ取り組み隊」が始動し、実際に現場で活動の様子を見て、話を聞いて、活動を体験する「現地ツアー」を実施しました。「報告会&ミーティング」では、現地ツアーで見つけてきた地域資源や、活動の手助けになるかもしれないアイデアを共有し、市民創発を促す「アクション」を考えました。新型コロナウイルス感染症の発生に伴いアクションの実施は叶いませんでしたが、宮前区らしいしくみを考えるスタートになりました。

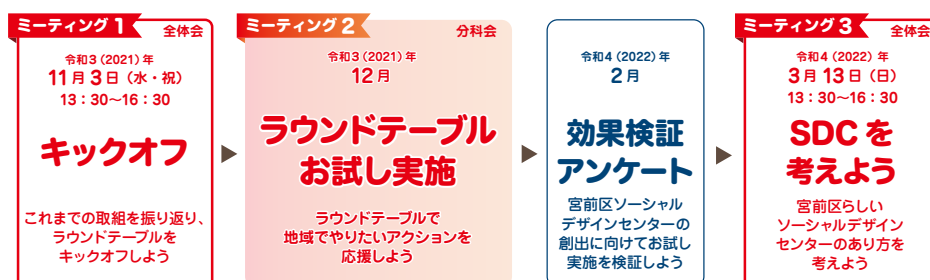
令和3年度(2021～2022年)の取組 宮前区らしいしくみ(仮説)の お試し実施

令和3年度は、「みやまえ取り組み隊」が積み重ねて検討してきた、地域の課題解決や活動を豊かにする宮前区らしい「しくみ」を、実際にお試しで実施しました。

宮前区では、区内の多彩な活動がより豊かになることが重要であり、そのためには、お互いを知り、つながり、信頼できる関係を築くことが必要と考え、そのための取組が宮前区らしいしくみではないかという仮説をたてました。

多様な主体が協働・連携するプラットフォームとして「ラウンドテーブル」を考え、お試し実施しました。

取組と検討のステップ



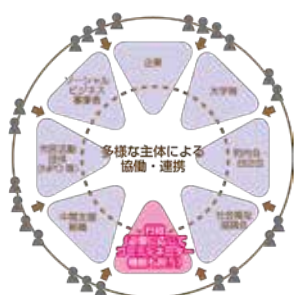
宮前区の区域レベルの地域課題解決のしくみ(ソーシャルデザインセンター:SDC)の創出に向けて、ラウンドテーブルのお試し実施の効果を検証するアンケートを実施し、SDC像の検討につなげました。

宮前区らしいしくみは、

区内の豊かな活動を活かし、主体的に活動する既存の活動や人をつなぎ、さらに豊かにしていく「しくみ」や「しかけ」

仮説

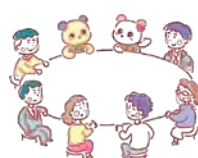
だれが?



宮前区の多様な主体

による協働・連携
(行政も一員)

どんなカタチで?



多様な主体が
協働・連携する
プラットフォームとなる
「場」が必要

「ラウンドテーブル」

どこで?



特定の場所(拠点等)
ありきではなく
宮前区のポイント／
求められる「機能」を
区内の多様な主体が連携
しながら実現につなげて
いけると良い

どんなこと・支援を?



課題解決に必要な
支援として
6つのアイデアの柱
が基本の機能

どうやって運営?



多様な資源(人・ノウ
ハウ・場など)を
みんなで持ち寄る
宮前区のポイント／
行政からの補助金などは
なく、多様な主体が持ち寄
る資源を活かしながら運営

宮前区にソーシャルデザインセンターがあることで 何ができるの? 何が変わるの?

SDCは誰のためのしくみ?

- 区内で様々な活動をする人・団体
- まちを良くしたいと思っている・まちのことで困っている区民
- 宮前区をみんなが楽しく、住みやすい地域にするために!

SDCによって何ができるようになるか?

- 様々な人や団体、企業、活動とつながり、1つの主体では実施が難しいことを、SDCを通して多様な主体との協働・連携を通じて実現できるようになる
- 必要としている支援を提供している主体とつながることができる
- 地域課題の解決を目指して、実験的に取り組んでみる事ができる

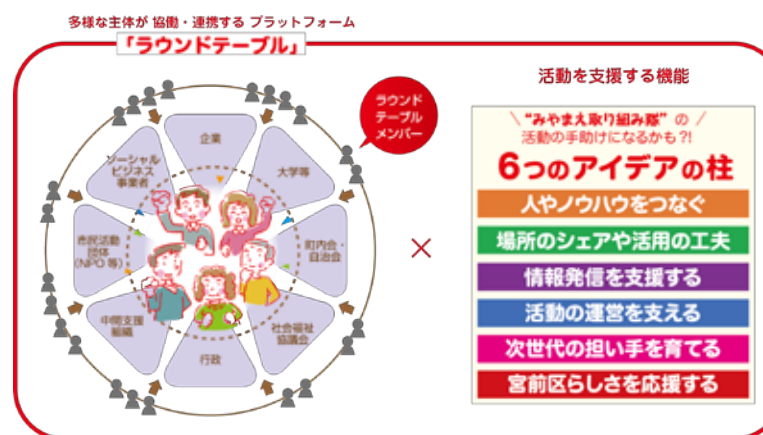
多様な主体が 協働・連携する プラットフォーム

仮説

必要な情報が
シニアに
届かない...
まちでもっと交
流できる場が
あったら
いいのにな～



地域の課題や
実現したい
こと



こういう人や
団体に情報を
届けるといい
んだ!
すでにこんな
取組があった
んだ! コラボ
してみたい!



活動の
後押し・支援

これまでと何かちがうの?

委嘱など決まった
人だけが関わるのでは
なく、参加／出入り自由な
カタチで様々な人が関
われる

行政主導ではなく、
NPO、大学、企業との
連携による運営や、多くの
主体が知恵を持ち寄り
創発していくしくみ

「ソーシャルデザイン
センター」への行政の関
わり方自体も新しい
モデルになるように!

3つのプロジェクトをテーマにラウンドテーブルを実施しました。ラウンドテーブルは、単にプロジェクト自体を実現することだけではなく、実際に皆さんにプロジェクトに関わっていただくことを通して、新たなつながりづくり、ノウハウの共有、資源の見える化や活用の促進、企業との連携促進、地域の場の活用等を進めることを目的としています。

DATA

- ミーティング2-1:
2021年11月18日(木) 13:00～15:00
- 公園マルシェ:
2021年12月5日(土) 11:00～14:00
- ミーティング2-2:
2021年12月22日(水) 13:00～15:20

どんなラウンドテーブル？

公園で宮前まち倶楽部と花の台町内会が、公園清掃の後に実施するマルシェに、ラウンドテーブルメンバーも参加・協力させていただいて、ノウハウ等を共有するというテーマで実施しました。

まず本番の前に準備としてミーティングを実施しました。当日の具体的な準備、役割の確認、見るべき視点等について確認をしました。

マルシェ当日は大盛況で宮前まち倶楽部や町会の皆さんの力を実感しました。ラウンドテーブルメンバー

もアンケートを取ったり、情報コーナーを担当したりして運営を体験させていただきました。

ミーティング2-2では、開催後の振り返りを実施し、良かったこと 気になったこと 次回改善できることを出し合いました。

ラウンドテーブルのテーマはプロジェクトオーナーを引き受けてくださった
以下のみなさんにご提供いただきました。

DATA

各ラウンド
テーブルの
参加人数

ラウンド	参加人数	割合
テーブル 1	13名	41%
テーブル 2	10名	31%
テーブル 3	9名	28%

◀ 各ラウンド
テーブルの
詳しい様子は
こちらから！

https://www.city.kawasaki.jp/miyamae/cmsfiles/contents/0000103/103205/22_0313miyamaeSDC_03_sanko1.pdf

The image shows three pages of a handwritten Japanese vocabulary notebook. The pages are filled with colorful sticky notes (yellow, pink, blue) and handwritten text. The first page is titled '単語' (Words) and lists various terms. The second page is titled 'Set' and lists terms related to sets. The third page is titled '助動詞' (Auxiliary Verbs) and lists various auxiliary verbs.

[illegible]

ラウンドテーブルを通じて、公園などの公共施設の活用や町内会などの地域団体と連携した活動に関する理解が深まったことがアンケート結果から見えてきました。

また、今回の取組をきっかけに区では「**宮前区における物販を伴うイベント等に関する公園利用ガイドライン**」を策定。ガイドラインによって、公園活用のプロセスや条件がわかりやすくなり、より柔軟に公園を活用できるようになりました。

川崎市初の公園利活用
ガイドラインが誕生!?




宮前区の 公園がより活用 しやすくなります！

日頃から、公園の管理運営に御協力いただき、誠にありがとうございます。

川崎市では、『これからのコミュニティ振興の基本的考え方』に基づき、地域の居場所としての『まちのひろば』の創出や新たなつながりづくりに向けて、身近な公共施設について、より自由の取れた活用に向けた、地域での利用ルール の決定や、その管理・運用への参加を促進するなどの取組を進めています。

宮前区の公園につきましても、柔軟かつ多様に活用していくだけでなく、『公園の適正な利用や、維持管理の圈を持っていいただく』を目的に、**公園の活用に関するガイドライン**を定めること、地域の皆様と力を合わせて、さらに公園を楽しく、能力的に、愛される場所にできるように、宮前区民協として取組を進めていきますので、御理解のほどよろしくお願いいたします。

こんな公園を目指して公園の利活用に関するガイドラインを定めました！

- ※ 公園の利用については一定の制限があります。
- ※ 遊具やスポーツ広場の遊具施設は利用に配慮をお願いします。



**管理の行き届いた
居心地の良い空間に！**

楽しい公園に！



**地域の人々が集う
マラソンができる**

みんなの居場所に！



コミュニティカフェなども

**詳しくはこちらまで
お問合せください！**

ガイドラインに関すること

宮前区民協 社会福祉の推進課 公園課
電話 044-256-3135
Mail: EdokawaCity.kawasaki.jp

公園の維持管理に関すること

宮前区公所 公園・緑地・スポーツ課
電話 044-272-1691
Mail: EdokawaCity.kawasaki.jp

その他成果：

- 今回のようなイベントが公園の管理にもつながることが見えてきた
- 区役所では、今回の取組が社会実験のような効果となり、公園活用の内部検討が加速した

テーブル 2

シニアが気軽に立ち寄れる場 (宮前区版道の駅?) をつくってみよう!



どんなラウンドテーブル?

宮前区で「納得のいく人生」を送るには? テーブル2では、宮前区で健康で楽しく暮らし続けるために、気軽に立ち寄れる・出かける場をどのように作り、広げていくかをテーマに話し合いを進めました。

ミーティング2では、シニアがより地域でいきいきと暮らせるために、地域の既存の資源を活用してどんなことができるかのアイデア出しをしました。シニアの様々な悩みの解決やいきいきした暮らしを実現するために、使いたい地域の資源を掛

け合わせて、やりたいことを出し合いました。

そして、「応援したい!」と思ったアイデアや資源に対してシール投票を行いました。

ラウンドテーブル2の成果

解決したいことなどと
既存の資源を掛け合わせて
アイデアを出しました



テーブル2は、テーブル1・3と比べて、ゼロベースで議論したことが特徴でした。ゴールが見えにくかったという課題はありましたが、様々なアイデアから新たな可能性や広がりを感じるテーブルでした。



また課題解決のアイデア自体について、議論を通じて進めることができました。もともとは、「道の駅」という定常的な場所をイメージされていた西村さんが、皆さんからの意見を聞いて、シニアにとっては、集まりやすいようにそれぞれにとって

DATA

- ・ミーティング2:
2021年12月18日(土) 15:00 ~ 17:15

アイデア	内容	投票数
1. 道の駅	道の駅として、道の駅としての機能を提供する。	10
2. コジマ	コジマの店舗を活用して、様々なサービスを提供する。	15
3. 道の駅	道の駅として、道の駅としての機能を提供する。	10
4. コジマ	コジマの店舗を活用して、様々なサービスを提供する。	15
5. 道の駅	道の駅として、道の駅としての機能を提供する。	10
6. コジマ	コジマの店舗を活用して、様々なサービスを提供する。	15
7. 道の駅	道の駅として、道の駅としての機能を提供する。	10
8. コジマ	コジマの店舗を活用して、様々なサービスを提供する。	15
9. 道の駅	道の駅として、道の駅としての機能を提供する。	10
10. コジマ	コジマの店舗を活用して、様々なサービスを提供する。	15

20の
アイデア

40の
資源

が集まりました!

身近な場所でやるのが大事なのではないか、移動図書館のように様々なところを決まった曜日、時間でまわっていくのがいいのではないかといった形で考えを深めることができました。

テーブル 3

民間が保有する地域の場と地域活動を マッチングしよう!



どんなラウンドテーブル?

テーブル3では、企業の場の活用と地域活動との連携とマッチングをテーマに、2021年9月にコジマビックカメラ梶ヶ谷店で行われた「コジマルシェ」を題材に、取組を進めました。

ミーティング2では、第2回コジマルシェの可能性の検討を進め、3月19~21日のコジマルシェ開催が決まりました。

第1回の課題の解決方法を模索しました。区役所抜きでどのような連携体制をとるか、どちらかに

負担がかからないようどのように準備を進めるか、お互いにWin-Winになるような出店方法、情報発信の工夫などについて話し合いました。

ラウンドテーブル3の成果



民間企業が保有する場を地域が活用できることになり、場を持つ企業の事情やニーズの理解を深めることができました。

また、ラウンドテーブルを通じて、企業と市民の協働の取組情報を行政で取り扱えるようになりました。



今回は、地域活動の支援のため場所の提供を促進するという形で、ポスターやチラシを区役所に置くことになりました。ラウンドテーブルという機会がなければ、一般的には難しい対応が可能になりました。

DATA

- ・ミーティング2:
2021年12月5日(土) 9:00 ~ 11:00
- ・第2回コジマルシェ:
2022年3月19日(土) ~ 21日(祝)

民間企業と市民と行政の
協働の可能性が
広がりました!



テーブル3を通じて、官と民がコラボレーションするラウンドテーブルと、それも含めたソーシャルデザインセンターの可能性が見えてきました。

お試しラウンドテーブルの 効果検証アンケート結果

概要

お試しラウンドテーブル実施後、ご参加いただいた皆さんにアンケートを実施しました。アンケートでは、ラウンドテーブルの成果や課題について理解するために、ラウンドテーブルの効果について伺いました。また、お試しラウンドテーブルを実施してみた経験を通じて、「ラウンドテーブル」も含めた宮前区のソーシャルデザインセンターの機能やあり方についてもご意見をいただきました。

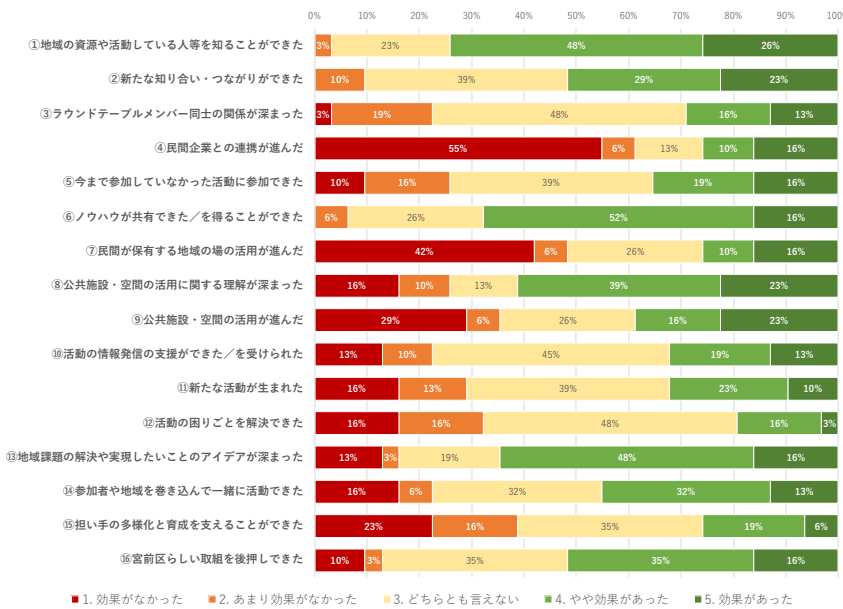


◀ アンケート
結果の詳細は
こちらから！

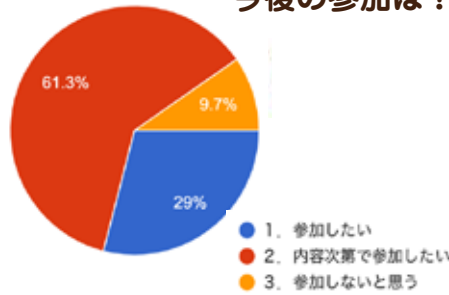
https://www.city.kawasaki.jp/miyamae/cmsfiles/contents/0000103/103205/22_0313miyamaeSDC_03_sanko2.pdf

ラウンドテーブルに関するご意見

3 | ラウンドテーブルの効果は？



7 | ラウンドテーブルへの 今後の参加は？

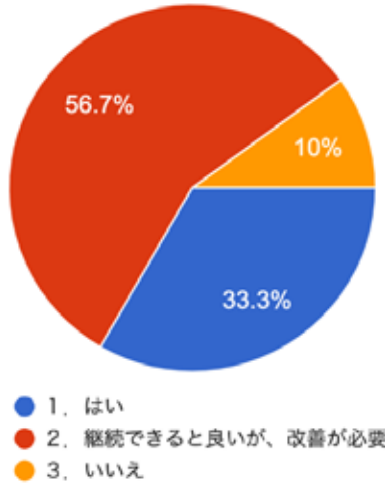


希望する関わり方（参加したい人）

ラウンドテーブルメンバーとして **79.2%**
 傍聴として **20.8%**
 プロジェクトオーナーとして **16.7%**

宮前区 SDC のあり方に関するご意見

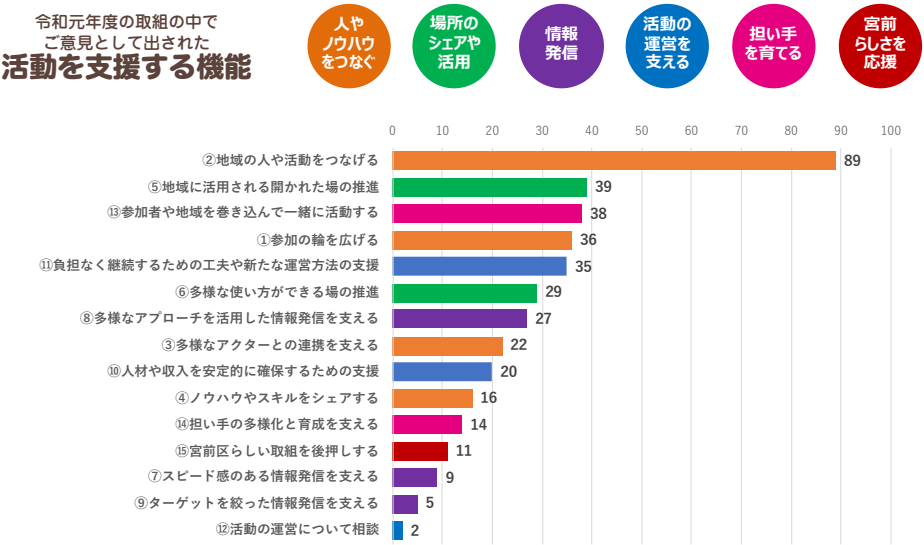
9-1 | ラウンドテーブル形式は 今後も継続できると良いか？



9-3 | ラウンドテーブル以外、どのような形式が望ましいか？

- 活動する人や団体が活動を共有し、交流を通じてつながり、新たな活動を生み出す
- 資源と人を結んで課題解決に導くようなしくみ
- 市民の活動を支援するしくみ
- 市民の声を広く集める、悩みの相談に乗る
- 市民がふらっと立ち寄って創発が生まれる環境をつくるために、固定した場所とスタッフ機能が必要
- 実施する取組（拠点やラウンドテーブルなど）は、その時のニーズに合わせて変化しても良い
- まちづくり協議会と一緒に活動できると良い

10 | 宮前区 SDC が担うべき役割・果たすべき機能は？



アンケートで
いただいた
ご意見を踏まえて、
次のページの
宮前区 SDC 像（案）を
まとめました！

ラウンドテーブルの成果と今後の課題

成果

- 多様な立場の人が意見を出し合うことで、発見や気づきにつながった
- テーブルごとに得られる効果に特徴があるが、「地域の資源を知る」「ノウハウの共有」は共通して評価が高かった
- 1つの主体では実現できないことの実現につながった

課題

テーマと目的の設定と共有：

- ミーティングの目的を明確に。変化したとしても共有することが大切
- イベントだけではなく、地域の課題を吸い上げるには

運営体制について：

- 継続的な取組を続けていくための体制が必要

人や活動をつなぐ／巻き込む：

- 多様な人が参加するからこそ、お互いを理解しあえる雰囲気づくりやつながるしかけが必要
- ノウハウの継承や場所の活用を実現するには、活動の積み重ねや地道な働きかけが必要
- 多様な層の人々を巻き込むための工夫やしかけが必要

宮前区のソーシャルデザインセンター像(案)

みなさんと一緒に
さらに
更新予定!

宮前区ソーシャルデザインセンターの検討を進めるにあたって、2018 年からの検討、2021 年度のお試しラウンドテーブルの実施やアンケートのご意見を基に、区でソーシャルデザインセンター像を「長期的／短期的」の2種類描いてみました。

この案を基に 2022 年 3 月 13 日のミーティング3で意見交換しました。



▲動画でも紹介中!

長期的な将来像

宮前区 SDC のあり方について具体的な検討をスタートするために、将来、宮前区 SDC が発展した際の将来像を描いてみました。お話し実施したラウンドテーブルだけではなく、様々な機能を実施して、多様な資金源を活用しながら運営していくイメージを示しています。

宮前区ソーシャルデザインセンター (SDC)

活動を支援する機能

宮前区内の多彩な地域活動を支える機能として、令和元年度の「現地ツアー」から得られた活動の手助けになりそうなアイデアをもとにまとめた、6つの柱の活動支援を SDC の機能としています。

SDC の取組

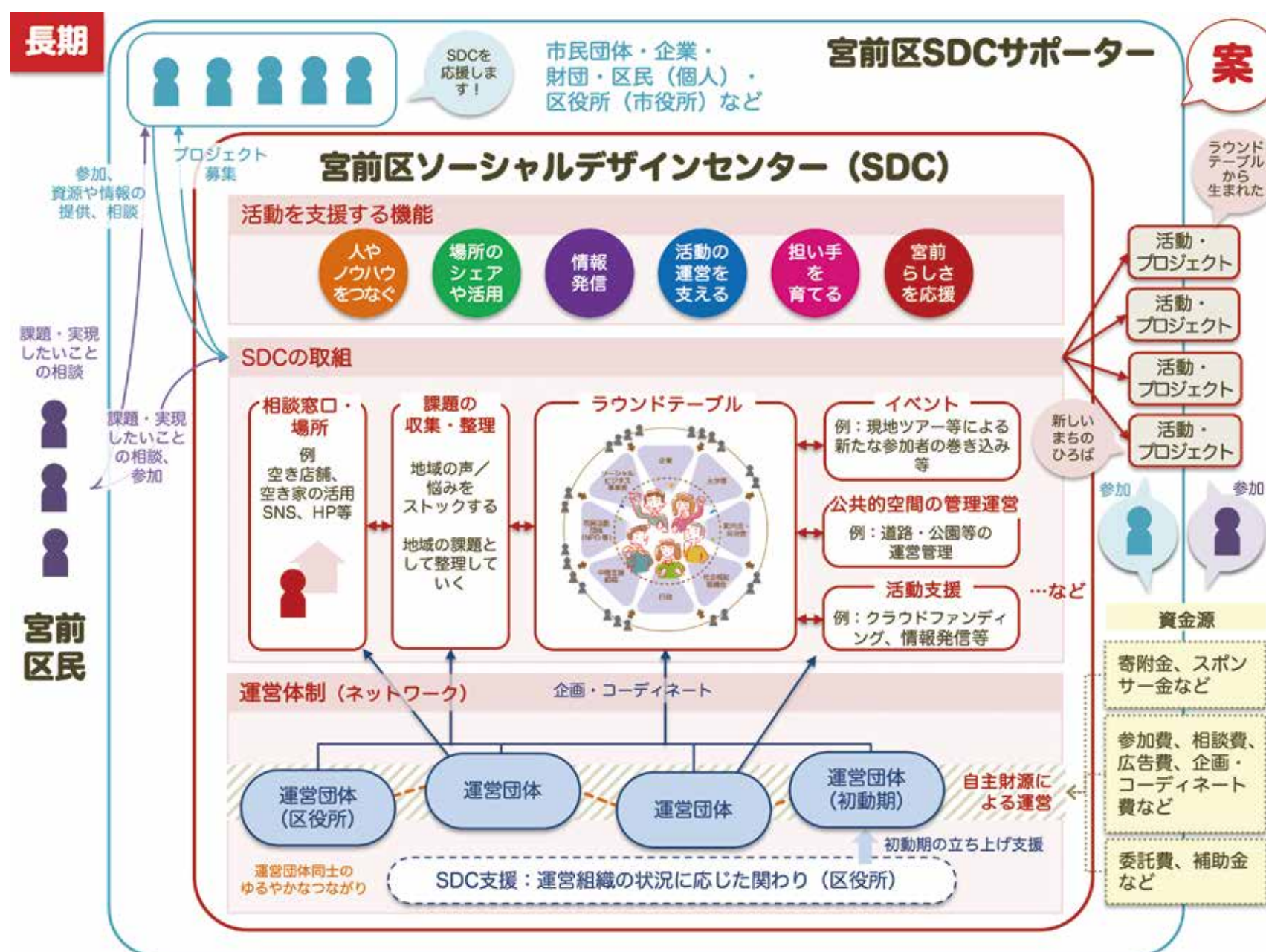
区内の様々なニーズに応えるため、様々な取組が SDC では実施されていることが考えられます。

まず、SDC に相談したいことがある際に、気軽に訪れられる窓口や場を想定しました。例えば、リアルな拠点があれば、あるいは SNS やホームページを活用したオンライン窓口など、多様なあり方が考えられます。

また、日頃から地域の声や悩みなどを集め、まちの課題として整理していく取組も SDC として必要です。

そして、みんなで協力して解決策を考えるべき地域の課題は、ラウンドテーブルで検討して話し合う。そんな SDC 像(案)を考えました。

さらに、SDC について区民に広く知ってもらい関わりをつくるためのイベント、公共空間の管理運営や、区内の様々な活動を支援する取組なども、SDC を実施していく上で大切な取組であることが考えられます。



宮前区民

区民の皆さんは、地域での日頃の悩みやまちで実現したいことを SDC に持ち寄ることで、課題の解決や取組の実現につながられます。SDC サポーターや SDC に直接持ち寄って、様々な人が話し合っ、それが解決されて活動になっていく。そんな将来像を描いています。

宮前区 SDC サポーター

SDC の運営に関わることはできなくても、SDC の趣旨や取組に共感し、関心を持っていただき、SDC を盛り上げ応援してくださる宮前区の様々な団体や個人などです。

関わり方としては、ラウンドテーブルを実施する際に参加する、資源を提供する、時には課題をラウンドテーブルに持ち込みプロジェクトのオーナーになる、といった関わり方ができると良いと考えます。

サポーターのみなさんによって、宮前区民に SDC の取組をシェアしていただくことで、より区民による、区民のためのソーシャルデザインセンターが実現すると思います。

運営体制 (ネットワーク)

運営体制については、1つの団体ではなく、多様な団体が連携していくことを描いています。

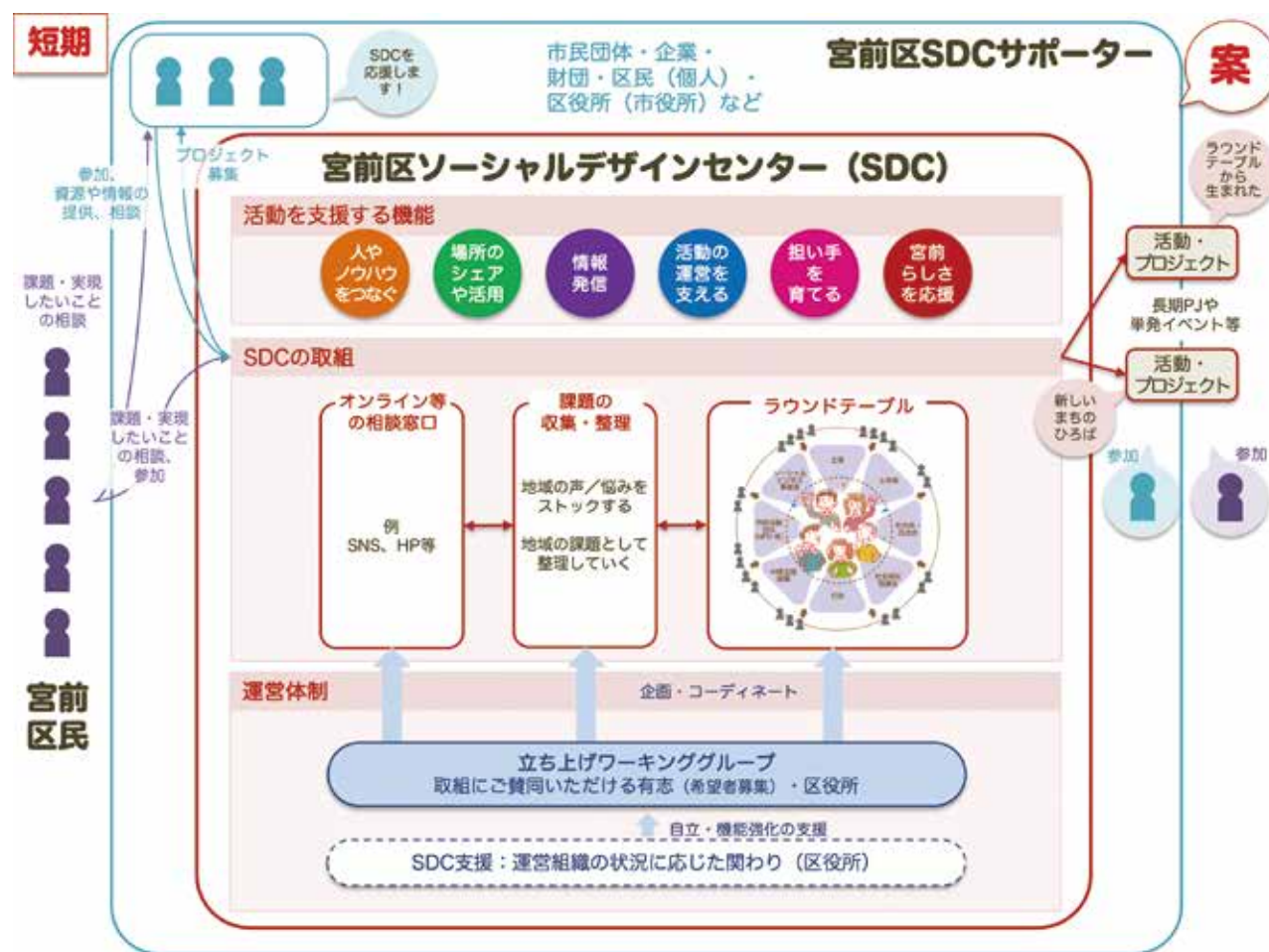
それぞれの特徴を活かした中間支援機能を担いながら緩やかにつながっていくという形にすることで、多様な人がつながっていくことに期待しています。区役所も運営団体の1つとして関わるとともに、運営団体の取組を下支えしていく予定です。

運営における資金については、多様な資金源を活用して、自主財源による運営を目指します。

実現に向けて、短期的にできることは？

急に長期的な将来像をフルスペックで実施することは難しいため、できるところから始めて、トライ&エラーで動かしながら実装していく。

お試し実施で一定の評価をいただいた「ラウンドテーブル」からスタートして、どのようにSDCを実働させていくか、みなさんと考えながら進めていきます。



SDCの取組

ラウンドテーブルの機能を強化・補完するため、課題の収集・整理やオンラインの相談窓口などの設置が考えられます。

活動とプロジェクト

長期的な将来像と違い、活動のプロジェクトの数が少なめです。SDCの担い手を育てながら、地域でのつながりを広げていき、信頼と実績を積み上げていくことで、多くのプロジェクトを検討できるようになり、様々な活動が生まれていくことが考えられます。

運営体制

長期的なあり方の実現に向けて、まずは短期的な進め方を考えるために、SDCを立ち上げるワーキンググループが必要です。区役所は、ワーキンググループに関わりながら、SDCの自立・機能強化に向けて、下支えをしていく役割を果たす予定です。

宮前区ソーシャルデザインセンター像（案）について 皆さまからいただいたご意見

2022年3月13日（日）のミーティング3にご参加いただいた皆さんから、SDC像（案）について感想や気になることを伺い、SDCのあり方についてたくさんのご意見をいただきました。ここではその一部をご紹介します。全てのご意見を整理した資料は、区ホームページをご覧ください！▶



SDCのあり方・考え方・進め方

得意なことを掛け合わせて、新しい価値を生むSDCになると良い

どうやって実現するのかといった具体的なロードマップが必要（短中期のステップを示す）

人の巻き込み方

若い人、働く世代、少し手伝いたい人が「地域活動のパートナー」のように、気軽に関われる入り口があると良い

ラウンドテーブルは多様な人が参加できる・することが大事

大多数の区民がSDCの取組について知らない。どのように参加を広げていくかが課題

担い手を育てる／関わってもらえる方法を考える必要がある

SDCの取組

場や拠点は固定だけではなく、移動できることも視野に考えると良さそう

SDCが受ける相談はどのようなものを想定しているか、深める必要がある

ラウンドテーブルに誰がつくかをどのように決めるのか？

SDCの役割は、みんなの困りごとを持ち寄って、まちの課題として捉え、新しいやり方／解決策を考えることだと良い

一般区民が持ち寄る課題を、SDCは楽しい課題解決に変換できると良い。どのように課題を呼び込めるかが大事

相談窓口を設置した際に、区役所との住み分けが気になる

SDCの役割は、区内の資源をつないでコーディネートする役割ではないか？

運営主体・体制

拠点・場があったら誰が運営する？

SDCに個人として関わられるのか？

地域の人や資源について詳しい人がいなくても、つながりを生むような仕組みがあると良い

複数組織で運営するとして、SDCの財布はどうなるのか？考える必要がある

情報発信

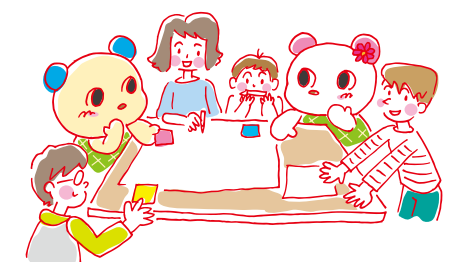
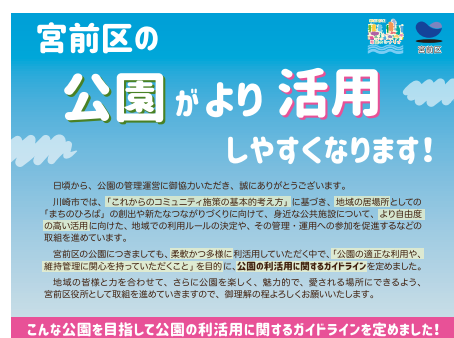
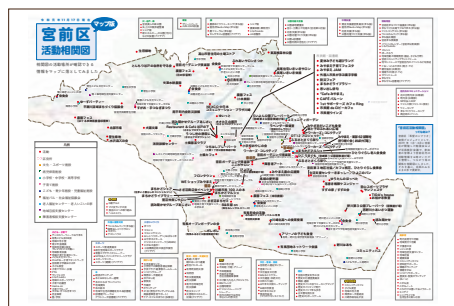
既存の資源やツールを活用して、オープンにして広めていくことが大事

まずは優先順位をつけて、すぐにでも始められる情報発信や課題収集・整理に取り組めると良い

凡例
● 感想
● 気になったこと
● わからなかったこと

参考情報

これまでの区の実績



宮前区のソーシャルデザインセンターに関する検討や取組をご紹介します。

宮前区活動関連図づくり（ちりばめ図&マップ）

2019年1～3月に宮前区が開催した勉強会および区民検討会議で、参加者同士で宮前区内の知っている活動を出し合い、つながり等の関係を関連図としてまとめました。活動場所が確認できる活動を落とし込んだ「マップ版」も作成しました。

<https://www.city.kawasaki.jp/miyamae/page/0000138898.html>



“みやまえ取り組み隊” 現地ツアー

区内で様々な活動をしている区民等の「みやまえ取り組み隊」が始動し、実際に現場で活動の様子を見たり、話を聞いたりする「現地ツアー」を実施。6日間のツアーには区民・職員等100人以上が参加し、34の活動を学ぶことができました。

<https://www.city.kawasaki.jp/miyamae/page/0000137079.html>



ラウンドテーブルのお試し実施

宮前区の区域レベルの新たなしくみの検討として、区内の活動がより豊かになるために重要な「つなぐ」機能を実現するため、多様な主体が協働・連携するプラットフォームを「ラウンドテーブル」形式でお試し実施しました。

<https://www.city.kawasaki.jp/miyamae/page/0000103205.html>



宮前区における物販を伴うイベント等に関する公園利用ガイドライン

ラウンドテーブルでの議論を踏まえ、公園の利活用に関するガイドラインを定めました。これに基づき、さらに公園を楽しく、魅力的で、愛される場所にできるよう、地域の皆様に御協力をいただきながら、取組を進めていきます。

<https://www.city.kawasaki.jp/miyamae/cmsfiles/contents/0000103/103205/kouenguidelines.pdf>



（仮称）

宮前区の「希望のシナリオ」実現プロジェクト

2018年から始めた宮前区の「希望のシナリオ」実現プロジェクト。これまでの取組内容を区ホームページで紹介してます。また、これからの展開についても随時更新していく予定です！

<https://www.city.kawasaki.jp/miyamae/page/0000103205.html>



市の方針・ツール等



川崎市のコミュニティ施策の実現に向けて、地域での取組を支える情報やツールを掲載しています

川崎市「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」

川崎市では、希望のシナリオの実現に向けて、多様な主体の連携により、持続可能な暮らしやすい地域を実現するために、「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」をまとめ、様々なコミュニティ施策を進めています。



<https://www.city.kawasaki.jp/shisei/category/38-1-16-1-0-0-0-0-0.html>

区における行政への参加の考え方

<https://www.city.kawasaki.jp/250/page/0000129457.html>

川崎市コミュニティチャンネル

https://www.youtube.com/channel/UCP8_Xql8yTBL5AZT5DtrG8w

まちのひろばひらきかた手帖

<https://www.city.kawasaki.jp/shisei/category/38-1-16-1-12-0-0-0-0-0.html>

意外と知らない公共施設の柔軟な使い方ガイド

<https://www.city.kawasaki.jp/250/page/0000126831.html>

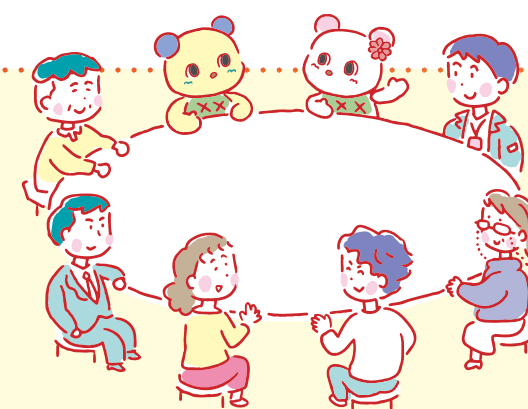
まちのひろば WA プロジェクト

<https://www.city.kawasaki.jp/250/page/0000109755.html>

各区の取組状況（ソーシャルデザインセンターの創出など）

<https://www.city.kawasaki.jp/shisei/category/38-1-16-1-13-0-0-0-0-0.html>

宮前区の 今後の取組予定

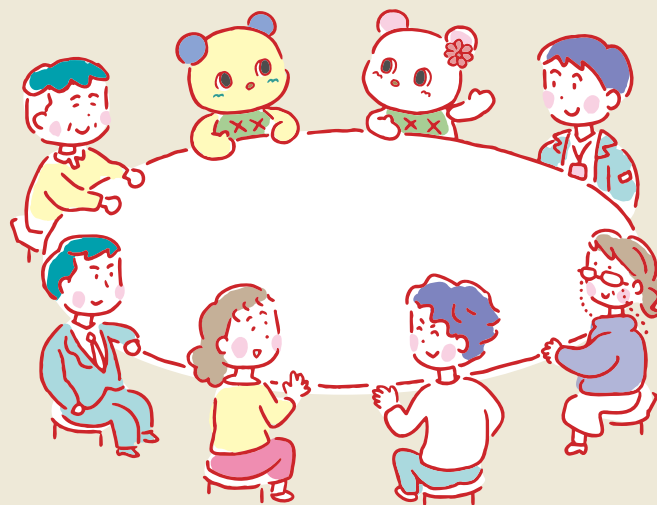


今後お示しした SDC 像（案）といただいた意見を踏まえて、SDC の取組を進めていきます。

SDC の運営に関わっていただく方として、SDC サポーターとして等、様々な形で皆様に関わっていただき、区民の輪を広げていきたいと考えています。

まずは、取組に賛同いただける方に立ち上げワーキンググループに参加いただいて、取組を進めていきます。

to be continued!



これまでの取組・今後の動きなど、
詳しくは区ホームページへ

宮前区 希望のシナリオ 検索

（仮称）宮前区の「希望のシナリオ」実現プロジェクト

宮前区ソーシャルデザインセンターの創出に向けた

「ラウンドテーブル」のお試し実施

令和3年度（2021～2022年）の活動記録

2022年3月発行

発行：川崎市 宮前区役所まちづくり推進部企画課

〒216-8570 川崎市宮前区宮前平 2-20-5

TEL：044-856-3133

制作：（株）石塚計画デザイン事務所